

地元の大学生と歩く、サステナブルな善通寺市

参加学生の感想まとめ

- ① 氏名
 - ② 所属班名
 - ③ 班内および全体での役割分担（自身の役割）
 - ④ やって来ての感想／成長したこと／よかったこと
-

- ① 大野亜里沙
- ② A 班・C 班
- ③ A 班リーダー（全体指揮）
- ③ C 班サポーター（講義ディスカッションファシリテーター）
- ④ A 班感想（A 班で 200 文字程度）

ジェンダー平等という SDGs の中でも特に難しい課題であったため、ツアーの軸を完成するまでに多大な時間がかかった。また店舗との共同開発商品や、スタンプラリー作成など、3つの班の中でも大規模なツアー内容となった。しかしその中でも班員が全員積極的であったことで、これらの問題が解決され、ツアーを無事に成功させることができた。ツアーに来てくれた参加者も、参加して良かったと言ってくださった人が多く、班員たちも本番を楽しく過ごせていた。何かを成し遂げるという事の達成感を得ることができた。

- ④ C 班感想（C 班で 200 文字程度）

平和学を学んだ自分にとって、リーダーへの助言やサポートをしやすかった。しかし乃木館と護国神社、乃木うどんを食べられるうどん屋を巡ることと、平和を結びつける事はとても苦勞した。また道中のガイド内容と、ディスカッション内容が被らないようにしたり、あくまでも中立的立場でのディスカッションを心がけたりと準備にも多大な時間を費やした。途中でA班のリーダーを兼任したことで、C班のサポートが疎かになり懸念していたが、本番では参加者も班員もリラックスした状態で話せておりツアーも無事に成功した。

- ① 森慎之介
- ② C 班
- ③ ツアー中に参加者に声をかけに行ったり、会話したりする。他の役割の人手が足りない時の手助け
- ④ 自分は約1年間かけて1つのプロジェクトにグループで取り組むということをしたことが無かったため、グループで進めていく難しさや1年間という長い期間での取り組み方を知ることが出来ました。本番では事前に予想していなかった問題がありましたが、臨機応変に対応することで無事にツアーが成功した時はとても達成感がありました。今回のインターンで自分が苦手な面識のない人との会話をする機会が多くあり、得意でないと思い避けていたせいで気づけなかった自分の良さや改善点を知れたことがとても良かったです。

- ① 池川友菜
- ② A 班
- ③ 管理(参加者への案内メールの作成、ツアー中の安全管理など)
- ④ ツアー本番までの間、次々に直面する課題に逃げ出したくなったことも何度かあった。だが、A 班の仲間はもちろん、手厚いサポートをしてくださった行政の方や先生、ツアーに協力してくださった 4 店舗の店主の方など、多くの人々のおかげで沢山の学びがあり、最終的には「楽しかった」と思えるツアーをつくることのできた。インターンシップ期間を通して、自分たちの言動にある程度大人が責任をもってくれる学生までとは異なる、社会の厳しさやコミュニケーションの重要性を学んだ。

- ① 田中隆生
- ② B 班
- ③ B 班リーダー(全体指揮)、ツアー中のガイド説明、クイズコーナーでの全体司会者
- ④ 1 年間にわたる長期インターンで、他者と共同しながらツアーを作成していくことが非常に大変であった。特に、班員を指揮したり各役割へ采配したりといったリーダーとしての働きをこなすことが困難であった。しかし、最終的には子どもたちの笑顔が溢れるツアーを企画することが出来て大変良かった。子どもへの対応は少し苦手であったが、何事もなく、無事にツアーを終えることができた。一方、ツアーまでの準備期間においては、まだまだ改善の余地があるため、次このような機会があれば、班員との綿密な情報共有や報連相を通して、より円滑なツアー作成を目指したい。

- ① 土井陽菜
- ② A 班
- ③ 広報(ツアー中の安全確認とスタンプラリーと写真に映っても良いかの説明)
- ④ インターンシップを通じて、広報担当としてスタンプラリーの台紙を担当しました。ジェンダーレスを意識し、黄色やオレンジを基調としたカラーパレットを使用して、文字や写真が目立つデザインを心がけました。実際にツアーを行ってみると、スイーツ店を回る楽しさだけでなく、地域の魅力を再発見する機会にもなりました。私は人と話すことが苦手でしたが、参加者の方々にスタンプラリーの説明をしたり、感想を聞いたりする中で、少しずつ自信ができました。このインターンシップを通じて、チームワークの大切さと自分の苦手を克服する勇気を学びました。

- ① 河原陽菜
- ② A 班
- ③ 副リーダー (リーダーや班員の補佐)
- ④ インターンシップを通して、誰かに任せることの大切さと、最後まで責任を持ち、貫き通す大切さを学びました。今回のガイドツアーは、SDGs を混ぜ込んだもので班員も苦戦しており、最初は本当に最後までやりきることができるのか不安で全て自分で解決しようと必死でしたが、副リーダーとして班員たちに役職を振り分け、見守る事も大切だということをリーダーから学びました。また、各役職に別れていた為各自に責任があり、通常では学ぶ事が出来なかったであろう、責任の重さも学ぶことが出来ました。ガイドツアー本番は

とても緊張しましたが、何度かモニターツアーを重ね努力した結果が、参加者の笑顔に繋がったと考えています。参加者の皆さんに「楽しかった」「また来たいと思えた」と言っていただき、このガイドツアーを企画して本当に良かったなと思いました。

- ① 長尾圭祐
- ② C 班
- ③ C 班リーダー、インターンシップにおける行政との連絡係
- ④ 班を結成する前の全体の指揮や行政とのやり取り、C 班に入ってから活動のどの部分でも自分の課題が見つかり、嫌になることが多々あった。主に報連相の遅さやグループをまとめあげるリーダーシップの無さが課題点であったが、どちらもあまり改善できなかった。しかし、今後、他の活動でも課題となってくる点を発見できたことや市役所の方と共に活動できた貴重な体験は自分の中で良かった点だと感じた。

- ① 宇賀彩乃
- ② B 班
- ③ ガイド説明担当(善通寺)
- ④ 初めは、関わりが少なかった人たちとの長期期間の活動ということもあって不安だったし、進めていく中で課題や改善点がたくさん見つかるたびに途中で諦めそうになっていました。ですが、B 班のみなさんがすごく意欲がありその意欲に自分も支えられたし、班での活動ということでひとりひとりの役割も大事になる上に責任の重大さにも気づくことが出来た。今回のインターンでは、ツアーガイドをつくることの難しさや考えることの多さ、準備の大変さを実感できたと思います。いろんな課題を乗り越えて最終的には B 班のみなのでつくりあげたツアーガイドは成功し、子供たちの笑顔を見ることが出来たため参加したことで誰かと協力して活動して達成する喜びを知ることが出来たことはすごく良かったし、いい経験になりました。

- ① 加藤彩百合
- ② B 班
- ③ ガイド中の説明、クイズでのタイムキーパー
- ④ ツアーを企画、運営する際、小学生の安全に配慮しつつ楽しんでもいただくために、試行錯誤したことがとても印象に残っています。ツアー本番では、説明の合間にクイズを取り入れるなど、お客様をどのように楽しませるかを第一に考えて行動する難しさもありました。また、当日は予定通りに進まない場面もあり、臨機応変な対応力の重要性も学びました。この経験を通して、入念な準備の大切さと柔軟な対応力の必要性を感じました。

- ① 浜田サラ
- ② B 班・C 班
- ③ B 班副リーダー、チラシ作成
- ③ C 班チラシ作成
- ④ B 班感想

ツアーを作るのってこんなに難しいんだなと思いました。ツアーガイドの内容だけでなく、チラシも小学生向けのものにしないといけないので、そこが難しかったです。ただ、そういうところを工夫をしながらツアーを作っていくのはとても楽しかったです。リーダーと副リーダーで話して終わってしまうことが多く、班員に声をかけることが遅くなることがあったため、今後気をつけていきたいと思いました。今回のインターンをするによって、こういった改善点が見つかってよかったと思いました。

④ C 班感想

C 班のチラシは B 班と比べて作りやすいものでした。先生が貸して下さったチラシの本を読みながら、真似をしながら、でも少し工夫をしながら作りました。真面目そうな感じにすることができたので良かったです。また、ツアー当日ではあまりしゃべれてなさそうな人に声をかけることができて良かったです。こういった 1 回きりの場では話しかけることができるんだなと気付くことができて良かったです。

- ① 楠真太郎
- ② C 班
- ③ C 班のガイドツアーの台本作成、当日のガイド
- ④ インターンシップでは私がガイドツアーの内容の部分を担当していたため、乃木館と護国神社のガイドツアーを行い、そこから平和について考えるという内容のものとなり、私が専攻している歴史学や教職課程を履修してからほぼ毎日のように続けてきた社会科の教材研究で得た知識を生かしていくことができた。また、当日のガイドツアーでは、一般参加の方々が積極的に参加していただけたためガイドしやすかったがコミュニケーション能力は必要不可欠なものであることを改めて学んだ。

- ① 岩佐春奈
- ② A 班
- ③ A 班企画(ガイド助手、メニュー表作成)
- ④ はじめは学生らしいガイドツアーを市役所の方から聞いた時は、どのようなツアーにしようと考えましたが、SDGs のジェンダーをツアーに取り入れることから、ツアー内容をどうするべきかと悩んだり考えたりしました。今回インターンシップに参加して、今まで自分がやってこなかったことが多く感じ、自分の課題がたくさんあることに気づきました。ガイドツアーを作る上で人とのコミュニケーション、ツアーの段取り、スケジュール管理が難しいと感じました。自分たちからツアーの内容を教え、実行するまで様大変なことはありましたが、良い経験になりました。

- ① 川西陸翔
- ② C 班
- ③ C 班副リーダー、参加者へのアンケート作成
- ④ 私たちの班は「平和」をメインテーマとしていたため、それを今回のツアーにどのように取り入れるかが難しいポイントの1つであったと感じています。また、本番では参加者の安全を確保し、適切に声をかけるために、グループ全体を後ろから見守りながら状況を把握すること、参加者たちと話す際には積極的にコミュニケーションを取ってくれた分、自分自身のコミュニケーション能力の不足を痛感するといった難しさもありました。そのため今回のインターンを通じて、長期的な取り組みを達成できたことへの優越感を感じる一方で、自分の苦手分野や報連相の難しさを再確認するいい機会・経験になったと感じています。

- ① 森本凌丞
- ② A 班
- ③ サポーター（メインガイド）
- ④ ガイドツアーと SDGs を組み合わせたツアーをすると聞いて全く想像ができなかったと同時に自分たちがお客さんに対してしっかりガイドができるか心配でした。モニターツアーの時に初めて実践した時は改善点が多く『本番大丈夫かな…』とツアー当日まですごく緊張していましたが、モニターツアーでのアドバイスのおかげで当日は無事成功できたと思います。今回のインターンシップの中でツアーを実際に企画してガイドだけでなく、お店との交渉やパンフレットの作成といった様々なことを学生主体で行ったことで普段ではできない経験ができたと思います。

- ① 藤澤勇矢
- ② B 班
- ③ 当日のガイド
- ④ B 班のガイドツアーは小学生を対象に、善通寺市内を徒歩で案内するという内容でした。なので、当日どのようなトラブルが起きるのか、いくら事前に予測をしても、不安なままガイドツアー本番を迎えました。いざどうなるのかと身構えていましたが、ガイドツアーに参加してくれた子供たちは、こちらの説明を一言一句逃さない勢いでメモを取り、移動も列になってスムーズに行ってくれました。滞ることなくガイドツアーを進行することができ、善通寺の魅力を楽しみながら子供たちに伝えることができたのではないかと思います。